２０２３年６月２５日（聖霊降臨後第４主日、特定７、Ａ年）
牧師メッセージ

「だから、恐れるな」

（マタイによる福音書 10:16-33）

司祭ヨセフ太田信三

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。」と主イエスが言われた通り、狼の群れの中で主イエスにのみ従う羊として生きることは困難なことです。狼に襲われる恐怖から逃れるために、人は主イエスよりも他の何かに頼り、彷徨います。時には、自らが狼になってしまうことだってあります。「恐れ」とはそれほどに、人が主イエスに従って生きようとする上で厄介なものです。主イエスは今日の箇所で、「恐れるな」と繰り返し語り、弟子たちを励まします。「恐れ」の厄介さをよくよくご存知だったのでしょう。では、何を恐れるな、と主イエスは言われているのでしょうか。

主イエスはまず、「人々を恐れてはならない」と言います。なぜなら、「体を殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。」とある通り、人は魂までも葬ることは出来ないからです。人は主イエスを十字架によって殺しました。しかし、その魂までも葬ることは出来ませんでした。「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」と言われる通り、それができるのは神だけです。人を創造し、イエスを復活させた神だけが、魂をも滅ぼすことも救うこともできるのです。だからこそ、いかなる迫害も恐れることはないと主イエスは弟子たちに告げます。

そして、驚くべき福音が続けて語られます。そのすべての命を支配する神が、人間の髪の毛一本までも数えているというのです。わたしは自分の髪の毛の数を知りません。神がわたし以上にわたしのことを知ってくださっている、ということです。「二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ地に落ちることはない。」一羽の雀の死をも、神は放っておくことはない。ならば神は、わたしたちのことを決して放っておくことはない。今も未来も、死してなお、命を支配される神がわたしたちを見捨てることはない。「恐れるな」という主イエスの言葉は、この神への信頼ゆえの言葉です。この神が共におられるからこそ、わたしたちは、恐れることはないのです。

しかしそれでも、師である主イエスのように生きることには困難が伴うでしょう。恐れはそれほどに強いからです。そのような時にはどうすれば良いでしょうか。主イエスは、「わたしが暗闇で言うことを明るみで言いなさい。耳打ちされたことを屋根の上で言い広めなさい」と言いました。これは、暗闇の中でも祈り、神の語りかけを聞きなさい、ということではないでしょうか。主イエスは捕われる前、ゲッセマネの闇の中で祈りました。神はその主イエスに語りかけ、主イエスはその言葉を聞き、御心に自らを明け渡しました。この主イエスにならい、わたしたちも困難の中でも祈るなら、神はわたしたちにも語ってくださいます。その言葉を聴き、従って歩もうとすることで、わたしたちはこの世にあっても主イエスにのみ従う羊として生きることができるのです。